

【高嶺小中一貫教育校（仮称） Q&A】

Q 小中連携教育と小中一貫教育は、どこが違うのですか。

A 小中連携とは、小・中学校の教職員が情報を共有するとともに、子どもや教職員が様々な行事や授業でつながりを深めることにより、いわゆる、「小中ギャップ」の解消を目指した取組です。
一方、小中一貫教育とは、同一中学校区の小・中学校を「ひとつの学園」として意識し、「目指す子ども像」を共有し、9年間の義務教育を一貫性・連続性のあるものとして捉え、責任をもって指導していくものです。

Q なぜ、今、「小中一貫教育」が必要なのですか。

A 小学校5年生から中学校1年生にかけては、発達の個人差が大きくなる時期です。特に学習面では、抽象的な考え方が導入され、自己肯定感にも影響が出てきます。近年、この時期の不安定さにより、思春期が早まるなど、新たな課題が取りざたされています。
これらのことから、子どもたちをとりまく環境の変化などに伴い、これまで以上に小学校と中学校で指導方針等についての情報共有・連携が必要となってきています。
そこで、小・中学校の教職員が一体となり、9年間の学びの連続性を踏まえ、子どもの発達段階に即した指導ができる小中一貫教育を行う必要があります。

Q 授業時間の違いによるチャイムはどのようなのですか。

A 他市町の小中一貫校においては、ノーチャイムや休み時間をずらすなどの工夫で対応しています。
一例としては、すべてのチャイムを揃えることは不可能なため、1校時・3校時の始業時と給食時、午後の始業時など一部のチャイムを揃えているところが多いようです。

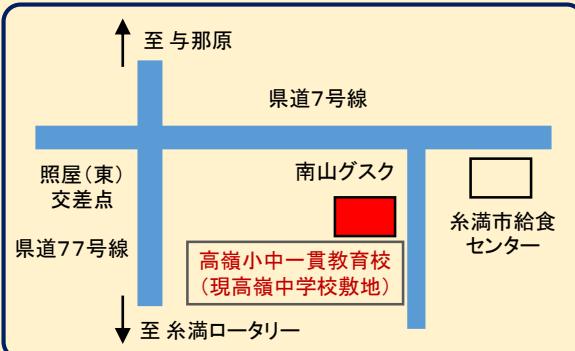
Q 行事はどのようなのですか。

A 合同で実施することができ、これも施設一体型のメリットの一つです。準備から練習、当日の運営まで、それぞれの役割を分担しながら、協力し合いながら、小学生と中学生が一緒になって活動する場面が見られます。
その他、始業式や入学式、音楽発表会、避難訓練など、様々な行事を合同で行うことが考えられます。

Q 施設一体型の小中一貫校の先生の数はどのようなのですか。

A 施設一体型は、小学校と中学校が同じ敷地内にあるという考え方になり、教職員の配置については、これまでの小学校・中学校と同様に、それぞれの学級数に応じて教職員数が決まります。

【高嶺小中一貫教育校 地図】



<お問合せ先>

糸満市教育委員会学校教育課
小中一貫教育推進班

〒901-0392

糸満市潮崎町1丁目1番地

TEL 098-840-8165

FAX 098-840-8161

E-mail gakkou-kyouiku@city.itoman.lg.jp

島尻地区初

令和6年4月

令和3年11月版

施設一体型小中一貫教育校が開校します!

糸満市立高嶺小中一貫教育校(仮称)



高嶺小中一貫教育校(仮称)のイメージ

子どもたちの9年間学びと育ちをつなぐ

～「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成に向けて～

糸満市教育委員会では、これまで小学校と中学校が連携して教育活動を展開する「小中連携事業」に取り組んできましたが、これをさらに深化・充実させ、小学校と中学校の義務教育9年間を通じて継続的で一貫性のある教育を行うことによって、学校における様々な課題を解決・改善してよりよい教育を推進し、児童生徒一人ひとりの個性を伸ばし、夢の実現につなげていきたいと考えています。

糸満市立高嶺小中一貫教育校(仮称)の特色ある取組(案)

特色 1 英語教育の充実

小学校1・2年生でも「外国語活動」を設置し、英語を楽しく学び、中学年の外国語活動、高学年及び中学校の外国語への滑らかな接続を図り、実践的なコミュニケーション能力の育成や言語、異文化に対する理解を深めます。また、小学校3年生から中学校3年生についても、各学年年間10時間程度の授業時数を他教科から上乘せし、教科横断的な視点に立った探究的な学習活動を実施することにより、学習の基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力の育成を図るとともに、すべての児童生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指します。

ポイント

- 中学校卒業時までに英検3級以上の取得を目指す
- AET(英語指導助手)の常時配置



いつでも英語に触れることができる環境を提供します！

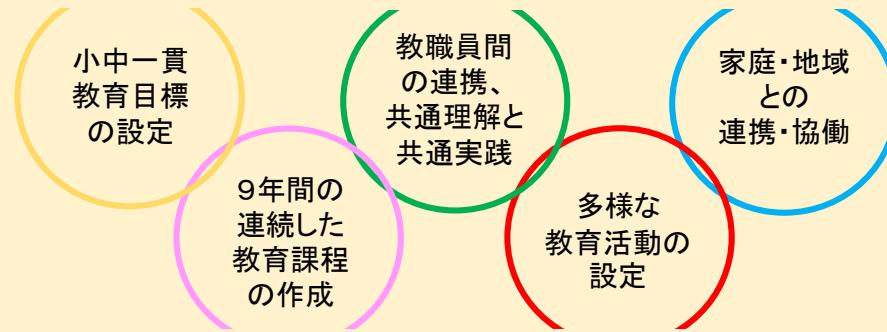


小中一貫教育の目標

- (1) 義務教育9年間を通じて、系統的・継続的な学習指導及び生徒指導を行うことで、豊かな心の育成、確かな学力の定着、健やかな体の育成を図ります。
- (2) 学校種の違いや発達段階で生じる子どもたちの不安や負担を軽減し、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を図ります。
- (3) 幼児期から青年期までの児童生徒の活動を通じて、豊かな社会性や人間関係を育みます。

小中一貫教育の5つの「結」

各段階の目標を結ぶ 教職員の意識を結ぶ 家庭・地域との絆を結ぶ



9年間の学びを結ぶ 子どもの心を結ぶ

特色 4 小規模特認校制度の導入

高嶺小中一貫教育校(仮称)では、特色ある取組を通して、児童生徒の豊かな心の育成、確かな学力の定着、健やかな体の育成を目指しています。このような教育環境の中で子どもを学ばせたい、学びたいという保護者及び児童生徒に対して、一定の条件のもと市内の校区外から入学及び転学を認める制度です。

特色 5 少人数学級編制による指導の充実

小学校1・2年生は1学級25人定員、小学校3年生から中学校3年生は1学級30人定員とすることにより少人数指導を行い、すべての児童生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指します。



少人数学級で、きめ細かな授業や指導が可能になります！

特色 2 発達段階に配慮した4-3-2制による滑らかな接続

施設一体型のため教職員の相互連携や児童生徒の交流活動、合同活動の実施が容易であるという利点を生かし、各発達段階における課題の解消と指導の重点化、小中の滑らかな接続を図るため、4-3-2制を導入します。



特色 3 中学校教員による乗り入れ授業

中学校教員による小学校高学年への乗り入れ授業の実施により、教科指導の専門性が高まることによる授業の質の向上、複数教師の多面的な児童理解による児童の心の安定化、中学校進学に対する不安の一定程度の解消等が期待できます。



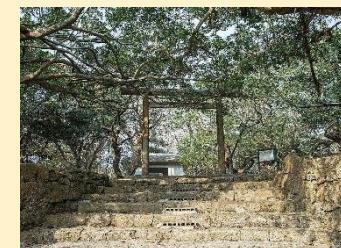
【想定される教科担当例】

	国	算	社	理	音	図	家	体	道	英	総	特
6年1組担任A	A	B	A	E	F	A	B	D	A	C	A	A
6年2組担任B	A	B	B	E	F	A	B	D	B	C	B	B

※ 教員C、教員Dは小学校担任外教員、教員Eと教員Fは中学校教員

特色 6 地域資源を活かしたふるさと学習の充実

ふるさとに愛着や誇りを持ち、創造性豊かな児童生徒を育成するとともに、地域の将来の担い手としての自覚を醸成するために、地域資源を活かした特色ある学習(ふるさと学習)をキャリア教育や環境教育の視点を踏まえながら、小学校の段階から系統的に推進します。



南山城跡



嘉手志川